

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：32617

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13568

研究課題名（和文）西周都城の性格に関する考古学的研究

研究課題名（英文）A Study of the Capital Structure in the Western Zhou Dynasty

研究代表者

角道 亮介（Kakudo, Ryosuke）

駒澤大学・文学部・准教授

研究者番号：00735227

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、西周期の都城たる周原遺跡の都市構造を解明するため、前後の時期の都市・都城遺跡との比較を通じて、西周期の社会統合において都城が果たした役割を明らかにすることを試みた研究である。周原遺跡の宮殿遺構と青銅器銘文の分布状況と時間的変遷を比較することで、王室とは異なる氏族集団が集住しながら拡大していく周原遺跡の性格が明らかとなった。これは、初期王朝期の都城が本質的に城壁を持たず集団統合の場として拡大することが重要であったことを意味している。新石器時代以来の城壁都市の発展経路とは異なる、祭政の中心としての都城の性格をより積極的に評価すべきであろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国における都城の展開を明らかにすることは、平城京など日本の都城の成立にも関わる重要な問題である。これまでの中国における都市構造の発展モデルは、新石器時代後期に出現した拠点集落が、順次拡大発展して初期王朝時代の都城に至るといった漸進的な進歩史観で解釈されることが多かった。しかし実際には城壁の存在は支配的とはいえ、都城の発展を発展段階論でとらえることは誤りである。本研究は集団統合と権力形成の場としての都市の機能に注目し、城壁の有無とその内部・外部に配された氏族集団の分布への検討から、国家形成期において血縁集団の混交の場として都城が機能し、それが王権の安定化につながったことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study presents urban structures of Zhouyuan site, the capital city of Western Zhou dynasty to clarify the role of city site in the social organization of early states in China.

By comparing the distribution and temporal changes of the palace remains and the bronze inscriptions of the Zhouyuan site, it became clear that Zhouyuan site expanded with the growth of clan group different from the royal. The existence of cities without walls shows that the capital city of early China had the essential purpose of city expansion and social organization.

研究分野：中国考古学

キーワード：中国考古学 都城 周原遺跡 城壁 青銅器祭祀 甲骨 豊鎬遺跡

# 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の背景は、東アジアでいち早く組織化された生態を作り上げた中国において、権力の中心としての都城が段階的に発展してきたという国家形成モデルを批判的に検討することであった。新石器時代後期に出現した城壁を持つ拠点集落は、初期王朝時代の城壁を持たない都城とは明らかに連続性を持たない。それにもかかわらず、現在の中国における都城の発展モデルは国家権力の伸長とともに都城も拡大発展してゆくという単線的な発展観が支配的である。本研究が着目したのは、都市に住む人々を統合する場としての都市・都城の性格であり、城壁がないという初期王朝期の都城の性格をより積極的に評価すべきであると考えた。

## 2. 研究の目的

研究の目標は西周期の都城たる周原遺跡の都市構造の解明である。周原遺跡からはこれまで鳳雛村・召陳村・雲塘村の各地点で宗廟と考えられる大規模建築遺構が発見されており、遺跡の祭祀的側面が強いことが窺われる。一方で遺跡規模の面で周原遺跡に次ぐ豊鎬遺跡では、祭祀青銅器の出土点数や大規模建築遺構の数は大きく劣る。それにもかかわらず、これまでの研究では両者の差異は無視され西周の「都」として同列に扱われてきた。

本研究は、発掘調査によって増加しつつある資料をふまえながら周原遺跡の各種遺構・遺物の分布状況に再検討を加え、遺跡内におけるそれらの分布状況を整理したうえで周原遺跡の都市構造が祭祀行為と不可分であったことを検証する。具体的には、鳳雛・召陳・雲塘の各建築遺構と、その周辺から出土する祭祀青銅器の位置関係から宗廟祭祀の階層性を読み解き、あわせて手工業関連遺構・住居関連遺構の分布を分析することで、都市としての周原遺跡の空間利用の復元を試みる。東周期以降の政治の中心として機能化・実用化された都城像とは異なる、祭祀を中心に据えた西周の都の特徴が明らかになることが想定される。

## 3. 研究の方法

上述のように、周原遺跡では鳳雛村・召陳村・雲塘村の三箇所で版築技法によって作られた基壇を伴う大型建築遺構の存在が明らかとなっている。これらの大型建築遺構は周の宮殿とも称されるが、甲骨の出土や特殊な建物の形状を考えれば宗廟の可能性が高く（飯島武次 2003『中国考古学概説』同成社）周の都が宗廟祭祀をその中心に設計された可能性は高い。本研究では宗廟遺構と祭祀遺構・手工業関連遺構・住居関連遺構・墓といった各遺構の配置の時期的な変遷を分析し、類似する遺構を有する豊鎬遺跡との比較を通じて、宗廟を中心とする周原遺跡の特殊性を明らかにし、その都市構造の変化を検討したい。

祭祀遺構の代表は青銅器窖蔵である。窖蔵は複数の青銅器が納められた土坑であり、これは基本的に周原と豊鎬にのみ認められる特殊な遺構である。窖蔵出土の一連の青銅器には特定の家系が祖先祭祀のためにこれらの器を製作したことが記されているため、窖蔵の存在は当時の貴族による祭祀行為が、王都の中のどの位置で行われていたのかを読み解く直接的な手掛かりとなる。周原遺跡の都市構造の時期的変化を考察するうえで注意すべきことは、西周中期から後期にかけて祭祀行為に大きな変革がみられることである。青銅器の器種組成における酒器の減少と水器の増加、青銅器銘文に記される定型的な儀礼（册命）の増加、墓への青銅器副葬の制限などの変化が西周中期～後期の間に集中的におこっており、祭祀行為と政治的支配が密接に関わっていた当時の政治体制下においては、これらはいずれも王朝による制度改革の一部であったと考えられている。周原遺跡と豊鎬遺跡の遺構分布を西周前期・中期・後期にわけて整理し、その変化を明示化することで、政治的・祭祀的な変革が都市構造にどのような変化をもたらしたのかを明らかにすることができる。

## 4. 研究成果

### (1) 周原遺跡の都市構造について

2017年10月に陝西省扶風県周原遺跡に赴き、北京大学考古文博学院・中国社会科学院考古研究所・陝西省考古研究院の協力のもと、周原遺跡斉鎮村における発掘調査に参加した。斉鎮村は雲塘村に南隣する。本調査では、雲塘宮殿とそれに関連する建築遺構の広がりを確認するとともに、そこから出土した新出資料の収集・分析に努めた。斉鎮村発掘地点においては西周の土層

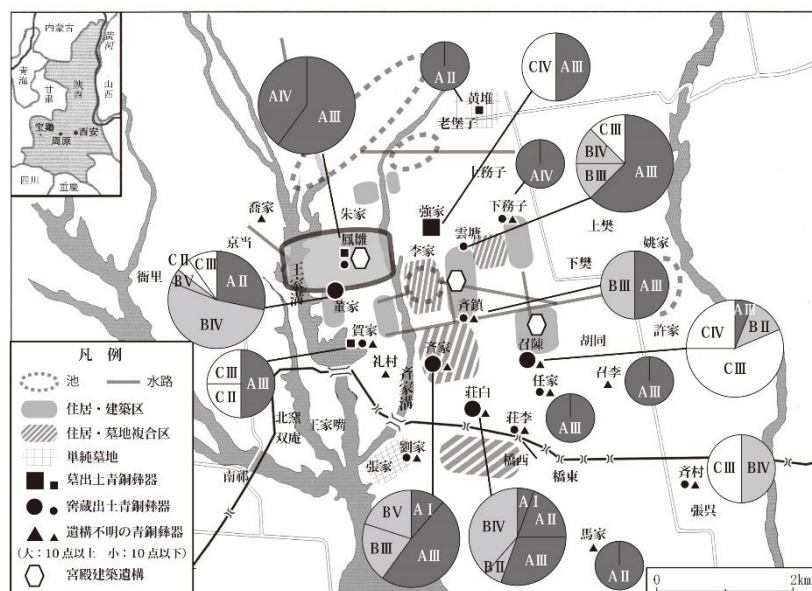


図1 西周時代後期の鳳雛・雲塘宮殿と青銅器銘文の出土傾向

から散水(大型建築物の外周に巡らせた栗石の列)が確認され、当地点にも大規模な建築遺構が存在したことが明らかとなった。遺物には空芯磚や瓦片などがあり、鳳雛村地点 雲塘村地点に準ずる宮殿があったことが想定される。また、鳳雛村地点を中心に広がる城壁の痕跡と、それよりも東に位置する雲塘村 召陳村の宮殿遺構の間に時間的な差が存在することを確認した。

現状の発掘成果に基づけば、周原遺跡は西周前期の段階で鳳雛村を中心に宮殿・城壁が築かれた一方で、中期以降に東側の雲塘・召陳の方面に拡張された都市であることが推定される。さらには出土した青銅器の銘文から、二つの宮殿区を利用した集団にも一定の差異が認められた。周王朝の中心を担った集団が鳳雛村の宮殿区を集中的に利用した一方で、西周中期・後期になって新たに王朝に組み込まれた外来の集団は雲塘・召陳の宮殿区を利用していたようである。周原遺跡は複数集団の集住の結果拡張されながら形成された都市遺跡であり、異なる血縁集団の混交と解体の過程が、西周期に行われ始めたとみるべきであろう。

## (2)初期王朝時代における都市構造の性格について

初期王朝時代の都城の性格を相対化するために、新石器時代後期と東周時代の都市遺跡に対する発掘調査にも参加した。すなわち、2019年10月に参加した河南省淮陽県平糧台遺跡における新石器時代後期の都市遺跡の発掘調査と、2018年10月に参加した陝西省鳳翔県雍城遺跡における東周時代の都城遺跡の発掘調査である。また、2019年2月には陝西省鳳翔県の水溝遺跡で、2019年10月には河南省安陽市殷墟遺跡で、それぞれ城壁と貯水池遺構の踏査を行った。

平糧台遺跡は中原地域では数少ない城壁を有する新石器時代後期の拠点集落であるが、内部の住居址の分布や排水施設の整備などの点からみて、当遺跡は新石器時代の集落が拡大したものとしてその延長線上に位置づけることが可能であろう。このような居住区全域を囲う城壁が、西周時代の水溝遺跡でも同様に存在することは重要な発見であった。新石器時代の城壁都市は初期王朝時代の城壁を持たない中心都市へと変化したのではなく、初期王朝時代の城壁都市として継続したのである。したがって中国における都市構造の変遷過程は、新石器時代後期に出現した防衛のための城壁都市と、初期王朝時代に出現した再生の中心としての都市(=都城)との二つの経路に分けて考える必要があるだろう。



図3 殷墟遺跡の貯水池遺構



図2 水溝遺跡の城壁

水溝遺跡は前者の、周原遺跡は後者の、西周時代における代表例とみなしうる。また、殷墟遺跡の貯水池は地盤整備のための土取りの結果によって形成された可能性が高いという。ここから、当遺跡が本来は都市を造営するには適当ではない地に人工的に作られた拠点であることが想定される。(1)の周原遺跡が集団統合のための中心地として機能したように、殷代後期においても多集団を統合するための祭祀の場として殷墟遺跡は機能したのである。

近年の発掘調査によれば、東周時代の雍城遺跡を囲う城壁も造営当初から作られていたものではなく、その成立年代は戦国時代半ばに下る可能性が高い。基本的に城壁を持たないという都城の性格は東周時代にもある程度は続いており、戦国時代に中国が社会の大きな再編成を迎えるにあたって、徐々にその役割を失ったものと考えられる。

## 参考文献

- 宋江寧 2016「対周原遺址鳳雛建築群の新認識」『中国国家博物館館刊』2016年第3期
- 孫慶偉 2016「鳳雛三号建築基址与周代的亳社」『中国国家博物館館刊』2016年第3期

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 角道亮介	4. 巻 18
2. 論文標題 周原遺跡における西周都城の都市構造	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 9-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 角道亮介	4. 巻 上
2. 論文標題 考古資料からみた龍の起源	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国古籍文化研究	6. 最初と最後の頁 447-460
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 角道亮介
2. 発表標題 西周金文与"宗周" - 従考古資料看周原遺址的都城結構 -
3. 学会等名 東北亜青銅文化比較研究国際学術会議（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 角道亮介
2. 発表標題 西周時代における都市設計とその変遷
3. 学会等名 日本考古学協会第84回総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryosuke KAKUDO
2. 発表標題 Changing Eastern Boundaries of the Western Zhou State: Insights Provided by Inscribed Bronze Sources
3. 学会等名 The 8th Worldwide Conference of the Society of East Asian Archaeology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 角道亮介
2. 発表標題 西周腰坑与墓葬族属的再探討
3. 学会等名 中国考古学研究 第二届中日論壇 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 角道亮介
2. 発表標題 周原遺跡にみる西周都城の機能
3. 学会等名 日本中国考古学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 大城 道則 (角道分担執筆)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 128
3. 書名 図説 古代文字入門	

1. 著者名 日本考古学協会編（角道分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 298
3. 書名 日本考古学・最前線	

1. 著者名 Jean-Paul Demoule/Garcia Dominique/Alain Schnapp（角道分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 La decouverte	5. 総ページ数 601
3. 書名 Une histoire des civilisations	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----